

学校番号	6	学校名	浜松聴覚特別支援学校	校長名	藤田延江
------	---	-----	------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
いきいき	互いを認め合う人権感覚を高め、豊かな心を育む指導の充実	児童生徒は、相手の意見を聞けたり自分の意見を言えたりできている。	職員評価 AB 100%	保護者評価 AB 90%	○子ども同士の関わりが増え、伝え合いの約束を意識しながら、自分の考えを伝え、他者の考えを受け止める大切さを学ぶことができた。 △策定した人権教育全体計画・年間指導計画を周知徹底し、学校全体で取り組む。
		異なる考えでも受け止め、相手を尊重した言動ができている。	職員評価 AB 94%		○職員全員が良い学部の雰囲気を作ろうという意識をもち、協力し合える体制づくりが安心感につながった。
	安全・安心な生活のための環境・体制づくり	児童生徒は、自分の健康や命を守る方法を理解し行動できている。	職員評価 AB 96.9%	保護者評価 AB 100%	○適切な時期に保健指導を行い健康に関する理解が深まった。 ○避難訓練と災害学習は災害項目に分け効果的に実施できた。 △訓練の回数や時期の検討。
		緊急時の初動体制を理解し、迷わず対応ができる。	職員評価 AB 96.9%		○研修で共通理解を図り、訓練ごとにマニュアルや体制の整合性と修正を図ることができた。 △市や他機関との連携と情報共有の強化。
	計画的、効率的に業務が遂行できている。	職員評価 AB 94%		○各学部の行事や校外学習の検討、共有を行い、目的に応じた活動の精選と計画的な実行につなげることができた。	
	学校経営予算の計画的な執行により、修繕や購入が効率的に行えている。	職員評価 AB 96.9%		○施設修繕は、危険が伴うものについて、情報共有し速やかに対応した。 △施設修繕必要箇所予算が伴わずできていない箇所がある。	
		聴覚障害教育の専門性が高まり、その専門性を発揮して指導ができている。	職員評価 AB 93.8%		○コース別学習会を行い、希望するコースを選択して研修することができた。チェックリストを分析し、評価の低い項目は職員会議で学ぶ機会を設けた。

わくわく	一人一人の言語力の獲得と、協働的な学びの授業や生活づくり	<p>児童生徒がわくわくする姿と、新しい学びのある授業ができています。 幼児児童生徒が主体的に対話し、学びが深まる授業ができています。</p>	<p>職員評価 AB 96.7%</p>	保護者評価 AB 80%	<p>○県内他聴覚特支校と国語のオンライン合同授業を実施したり、グーグルクラスルームやジヤムボードを積極的に活用し、ICTの効果的な活用に向けて検討を始めることができた。 △職員間の対話に基づく、基礎的な授業技術向上を図るための仕組みづくりを進めていく。</p>
		<p>舎生が、「わくわく」送った寄宿舎生活を送ることができている。 舎生が主体的に対話し、主体的に活動できている。</p>	<p>職員評価 AB 96.5%</p>		<p>○お楽しみ会の企画・実行やリクエストメニューの決定、ニュースの感想など、舎生が意見を交流させながら主体的に活動することができた。 △指導員の支援を最小限にしていく。</p>
		<p>読書活動をとおして、生活言語の拡充とコミュニケーション能力の向上ができています。</p>	<p>職員評価 AB 96.8%</p>		<p>○1階廊下に赤十字の本を配架したり、図書室にお勧めの本を並べたことで、気軽に本を手にとることに繋がった。城北図書館の本も学習や読み聞かせなどに幅広く活用ができた。 △小・中図書委員会の連携。</p>
		<p>児童生徒は、一人一台端末を活用することができている。 ICT機器を有効に活用した授業が行えている。</p>	<p>職員評価 AB 90%</p>	保護者評価 AB 89.6%	<p>○端末を使用することに慣れ、使用場面が増えた。 ○ミニ学習会で電子黒板の使い方や他校の実践について学ぶことができた。 △教員のニーズに応じた研修会の企画と機器の整備。</p>
しなやか	共生・共育と地域におけるセンター的役割の充実	<p>生活経験が広がり、幼児児童生徒の成長を感じることができている。</p>	<p>職員評価 AB 96.8%</p>	保護者評価 AB 95%	<p>○他園との交流で生活経験や遊びの経験が広がった。 ○集団の中での自分の聞こえについて考える機会になった。 ○先輩の話から将来の自分像を考える機会となった。</p>
		<p>在籍校や医療機関等との連携を図れ、ニーズに応じた支援ができています。 研修や支援をとおして啓発ができています。</p>	<p>職員評価 AB 100%</p>		<p>○在籍園・在籍校、医療機関と連携し、実態、ニーズを把握して支援することができた。 ○市町と連携して研修会を行うことにより、難聴についての啓発を行うことができた。 △関係機関と直接情報交換できるシステムの構築。</p>

社会自立に向けた関係機関との連携強化	個別の教育支援計画や指導計画について、保護者と教員、教員間で共有し、活用することができている。	職員評価 AB 100%	保護者評価 AB 97.5%	○個別面談で、教育支援計画・指導計画を保護者と確認することが習慣づいてきている。 △個別の検討会を充実させ、複数の目で見たとより良い支援を検討していく。
	家庭や関係機関と連携し、社会自立に向けたキャリア教育や必要に応じたケース会議ができている。	職員評価 AB 96.5%		○関係機関との支援会議、情報の共有を通して、家庭への有効な支援ができた。 ○スクールカウンセラー、スクールロイヤーとの連携が、指導支援の後押しとなり、関係機関とつながりかけにもなった。 △不登校傾向にある生徒、家庭への支援の充実。
	自分や友達の良いところ得意なところを言え、自分らしさに気付ける指導や支援ができている。	職員評価 AB 100%		○学年を越えた活動を増やしたことで、様々な意見に触れることができ、自分を見つめ、自分のことを話すことができた。 △自己理解と他者理解を自立活動と併せて、道徳や生活全般で考えていく時間が必要。
	児童生徒が、感謝の気持ちと夢を語ることのできる学習活動を実施できている。	職員評価 AB 100%		保護者評価 AB 94.7%